

りそな Asia時事フラッシュ

中国人民銀行が再び利下げ

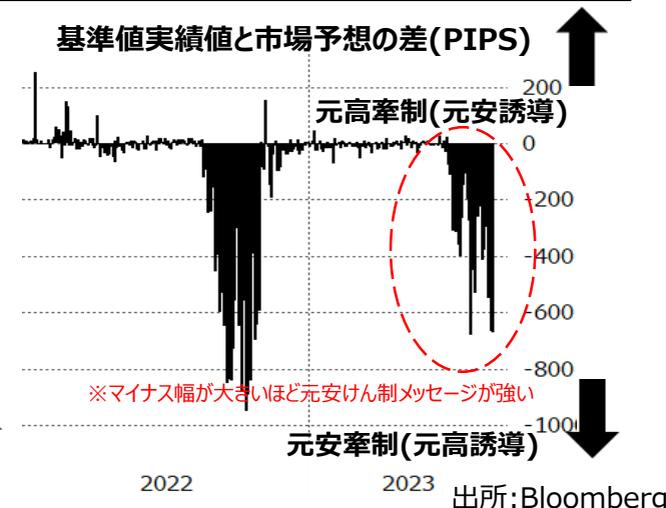
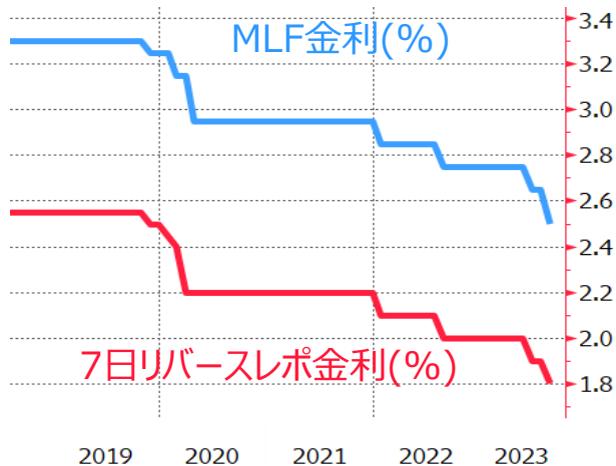
 りそなHD 市場企画部
 担当:呉

今年2回目の政策金利引き下げでPBOCが金融緩和を強化する

- 8月15日に中国人民銀行(PBOC)が短期政策金利である7日リバースレポ金利を1.9%から1.8%に、中期政策金利であるMLF(中期貸出制度)金利を2.65%から2.5%に引き下げた(左下図)。今回の利下げは6月の0.1%利下げに続いて、年内2回目の利下げとなる。MLF金利の引き下げ幅は6月と比べて拡大しており、下げ幅はコロナショックの際の0.2%に次ぐ大きさ。
- 年内に預金準備率の引き下げが実施されると予想していた市場参加者が大勢の中、PBOCが利下げを実施したのは予想外。7月の信用統計では人民元貸出が季節性以上に鈍化したのが背景の一つであるだろう。7月の鉱工業生産、小売売上高、固定資産投資の伸び率が前月より鈍化したのも一因と考えられる。年間成長率5%前後の実現を支援するために、PBOCが大きめの利下げに踏み切ったと思われる。
- 今回の利下げの前は直近の経済回復の状況を踏まえて実質政策金利(政策金利からコアCPIを引いて得た数値)が高すぎるとの見方が多かった。中下図が示しているように、2021年末から実質政策金利が上昇傾向にあった。今回の利下げを受け、実質政策金利が大幅に低下したため、景気支援効果が高まるだろう。
- MLF金利引き下げにより、「MLF金利+スプレッド」で算出されるLPR金利(貸出基準金利)は0.15%以上の低下となる可能性がある。特に住宅ローン金利の基準であるLPR5年物が0.15%以上低下すれば、不動産市場の支援材料となる。21日に発表されるLPR金利が注目される。

人民元への影響は短期と中長期で異なる

- 政策金利の引き下げを受けてドル人民元は一時7.3を超え、去年の高値を試す勢い。中国10年金利低下も進み、今年の最低値を更新した。一方、米金利についてはインフレ再燃の可能性や需給悪化により、金利上昇傾向にある。右下の図が示しているようにPBOCが元高けん制を続けているが、短期的に米中金利差拡大によりドル人民元には上振れリスクがある。中長期的に今回の利下げや各地で行われる不動産対策で経済回復の改善が見られた場合、人民元は対ドルで増値する可能性がある。
- 今後相対的に低金利の人民元を使ってキャリートレード(金利差を狙う取引)が活発になる可能性がある。同じくキャリートレードが活発である円も売られやすいため、人民元円は方向感が出にくいとみる。



出所: Bloomberg

◎注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否にかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることがあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客さまご自身の判断でなされるようお願いいたします。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。